

# JSAI2012 オーガナイズドセッション「オノマトペの利活用」

## ディスカッションのまとめ

2012年6月14日

文責：小松孝徳（信州大学），中村聡史（京都大学）

ディスカッションテーマ：

### オノマトペ研究における仮説そして目的

#### ○オノマトペに関して未だ明らかにされていない性質

- ・オノマトペにおけるインタラクション性の検証（インタラクティブな場面でよりオノマトペが使われる？）
- ・オノマトペにおける数言語的クロスの検証（韓国語や東南アジア語でもオノマトペが使用されていることを踏まえて）
- ・オノマトペの歴史的立場（オノマトペにおける進化的な側面？それとも起源？）
- ・オノマトペと時間制約との関連（コンパクトに伝えたいときに効率的に使用される）
- ・共感したいときにオノマトペを使う？
- ・コミカルに物事を表現にしたいときオノマトペを使う？
- ・オノマトペにおける方言差は？
- ・オノマトペにおける実文化的な側面
- ・そもそも、オノマトペは何を修飾しているのか
- ・共感覚とオノマトペの関連性
- ・オノマトペとミラーニューロンとの関連性

#### ○オノマトペ研究の進むべき方向性

- ・荒々しいオノマトペを対象とするべきでは（テキストだけではなく、特定のオノマトペだけではなく、韻律やジェスチャとの関連にもっと注目）
- ・なんでオノマトペをやっているのかにもっと注目しよう
- ・オノマトペから感覚や意図を抽出したい
- ・オノマトペはどれだけ万能表現なのか？
- ・単純に扱っているオノマトペを列挙してデータベース化してシェア（ドメイン依存，ドメイン非依存のオノマトペの可能性）

○本セッションを盛り上げていく上での課題

- もっとオノマトペに関する根本的な議論がなされるべきではないか
- 心理側はシステムが勝手にやってしまうのが怖いので、情報学が何をやっているかがわかれば怖くなくなるかもしれない
- 学際領域で新しい分野を作ってしまうと、メインフィールドで活躍できない人の寄り合い所帯になる可能性がある。メインの分野に戻った時に、インパクトを与えられるような研鑽の場であるべき
- 学際的な分野だとグランドセオリーが無いのが問題
- オノマトペをクリアに捕えて分析すると、面白い部分がそげ落ちてしまうことに注意.

○今後追求すべき研究の具体例：

- お菓子コーパス，東北方言のオノマトペ用例集の分析
  - 日本語には触覚以外で味覚を表現するオノマトペが無いのか？
  - 色を表現するオノマトペも無いのか（中国語にはある）？
  - 何かの料理のみに使われるオノマトペはあるか？（オノマトペの一意性）
  - 様々なドメインでのオノマトペの表現可能範囲のデータベース化
  - 医療および臨床心理への応用
- etc...

以 上